

2017 International Workshop on Global Research Challenges in Africa Compared to Japan

2017年1月6日～15日（ベナン共和国、トーゴ共和国）

実施報告

【背景】及び【目的】

多くの先進国が成熟し様々な問題を抱える一方、日本から約1万 km 以上遠方にあるアフリカ大陸は今や世界が注目する成長する大陸である。その可能性は、豊富な鉱物・エネルギー資源にはじまり、増加する人口を基盤とする経済、食料、物流やインフラ、衛生環境を含む医療など多岐にわたる。アフリカ大陸と言っても、54カ国がヨーロッパ全土3つ分の広大な面積の中に存在しており、多種多様な民族、文化、宗教そして政治的背景を持つ。このような「大きく」かつ「多様な」アフリカ大陸の将来を考える上で、物事を一元的に捉えるのではなく、多面的な視点を持ち、さらにはアフリカと日本の関係、日本が貢献できること等を実際に複数のアフリカの諸国にある国際機関、大学を訪問することで考える。

【参加者】

No.	Name	Year	Affiliation	Gender	Nationality	remark
1	Shuai Gu	D2	Graduate School of Engineering Department of Systems Innovation	Male	Chinese	GMSI
2	Winarno Agustinus	D1	Graduate School of Engineering Department of Precision Engineering	Male	Indonesian	GMSI
7	Liming Shu	D2	Graduate School of Engineering Department of Mechanical Engineering	Male	Chinese	GMSI
3	Alba Zurriaga Carda	D2	Graduate School of Engineering Department of Technology Management for Innovation	Female	Spanish	GSDM
4	Jenny Jung	D1	Graduate School of Medicine Department of International Health	Female	Australian	GSDM
5	Lisa Hartwig	M2	Graduate School of Public Policy Department of Public Policy	Female	American	GSDM
6	Giwon Hong	D1	Graduate School of Engineering Department of Systems Innovation	Male	Korean	GSDM
8	Sobhan Afraz	D2	Graduate School of Engineering Department of Civil Engineering	Male	Iranian	GSDM
9	Josiane Ponou Zomahoun	Assistant Professor	Graduate School of Engineering Department of Systems Innovation	Female	Beninese	GSDM
10	Seiko Nagumo	Administrative Staff	Graduate School of Engineering GMSI Program Office	Female	Japanese	GMSI

【実施内容】

2017年1月6日から15日までに西アフリカのベナン共和国とトーゴ共和国を訪問した。予定便のフライトキャンセルに伴い、エチオピアのアジスアベバで一泊し、アフリカへワークショップはアジスアベバでスタートした。学生8名、教員1名スタッフ1名が参加し、具体的な実施内容は以下通りである。

◆ Interaction with primary school students

ベナン共和国の北部にある Parakou 市の小学校を訪ね、学生が小学生に希望を与えるスピーチをした。本プログラムではベナンの教育システムの現状、進歩を知り、短い時間の交流だったが、ベナンの女性教育に大きな進歩があるのが分かった。

◆ Rural Life

グローバルリーダーになるためには、都市問題だけを勉強するのではなく農村部の現実も知るの重要であり、ベナン共和国

北部のンダリ市バウンポ村を訪ねた。人口約200人の村で伝統的な農業と家畜で生活している人々との交流ができた。村人の毎日の生活を味わって、農家が抱えている問題を話してもらい、学生が一番盛り上がったところだった。



Fig.1 Interaction with primary School student

◆ Cotton processing company visit

ベナン共和国の主な農作物である綿の綿繰りプロセス会社を訪ねてベナンの中小企業の現状を味わうことができた。

◆ Abomey-calavi university (UAC)

アボメーカラビ大学へのワークショップには学生20人が参加し、互いの研究紹介の後、グループワークで自分たちのバックグラウンド技術を用いて20年後のベナンをエネルギー、環境、農業、保健の四つの分野で議論し、最後に10分間ごとにチーム発表を行った。また、2つの研究室（バイオテクノロジー研究室、フードプロセッシング研究室）を見学した。バンケットによる交流も行った。UAC学生、UT学生共に得た知識はたくさんあり、非常に評判の良いワークショップだった。



Fig.2 Group picture of the participants with the representative of the dean of the school of Engineering



Fig. 4 Workshop in UAC (Technical Session, Group Discussion, Final Presentation, Lab. Visit, Certificate)

◆ West African development bank (BOAD)

西アフリカ開発銀行では“BOAD and development challenges in West Africa”というテーマで討論した。国立国際機関の BOAD のワークショップでは学生全員に興味深く、質問が多かった。施設見学や、BOAD の責任者等との会食も行った。

【実施結果】

アンケートにより分析した結果、100%の参加者がワークショップを楽しんだ。実施内容としては Rural life の社会的な活動が最も評価が高かった。アカデミック活動では UAC のワークショップが最も楽しめたものであった。参加者全員が UAC のワークショップが来年も続くことを希望をした。スキルアップした項目としては Communication, Team work, Specialized knowledge, Problem identification & Solution が挙げられた。International expertise, widening the scope of research にこのワークショップが有効と 90%の参加者が答えた。

このような機会を与えていただきありがとうございます。



Fig. 6 Group picture at the end

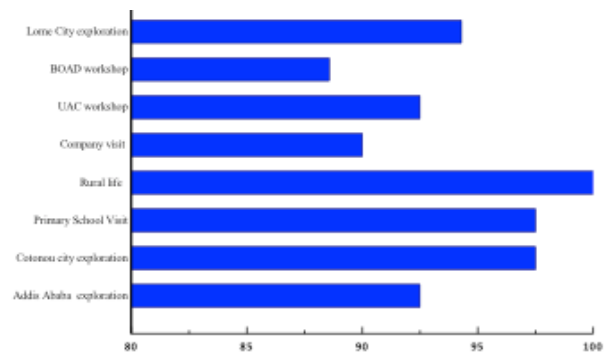


Fig.7 Rate of the workshop activities

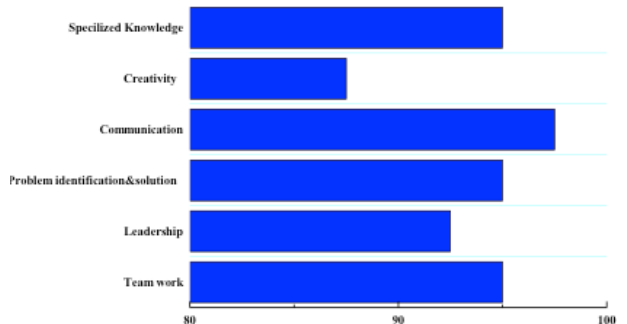


Fig.8 Skills you may develop from this workshop



Fig. 5 Welcome ceremony at BOAD